

研究・調査報告書

報告書番号	担当
7 1	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Alcohol and Breast Cancer: Review of Epidemiologic and Experimental Evidence and Potential Mechanisms 飲酒と乳がん：疫学的・実験科学的エビデンスと潜在的メカニズム	
執筆者 Keith W Singletary, PhD, Susan M Gapstur, PhD	
掲載誌 (番号又は発行年月日) JAMA 2001; 286 (17): 2143-51.	
キーワード アルコール、乳癌、エストロゲン、アンドロゲン、メタアナリシス	
要 旨 <p>目的：飲酒と乳癌の危険度の増加との関連性に関するヒト・動物および培養細胞研究からの知見のうち、1995年以降のデータを用いて要約する。</p> <p>方法：MEDLINEにて、乳癌発生との関連性が疑われる危険因子、あるいは生理的過程にエタノールまたはアセトアルデヒドが及ぼす影響について報告した研究を検索し分析。</p> <p>結果及び知見：飲酒によるエストロゲン値およびアンドロゲン値の増加が、飲酒と乳癌発生との関連を引き起こす重要なメカニズムであると考えられた。他に考えられる可能性としては、発癌に対する乳腺の感受性の上昇や、乳癌形成遺伝子の損傷の増加、また乳癌細胞のより高い転移能が考えられ、その過程には摂取アルコール量が影響している可能性がある。アルコールによる乳癌促進効果に対する感受性はまた、葉酸摂取量不足などといった他の食事因子やホルモン補充療法などの生活習慣あるいは腫瘍ホルモン受容体の性質といった生物学的特質によっても影響を受ける可能性がある。</p>	